

安曇野インボウ通信

第3号
発行責任者：増田望三郎
発行月：2014年7月

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。私の議員活動を報告する『安曇野インボウ通信』を毎回の定例会後に年4回発行します。市民のみなさんと市政の間に虹(= Rainbow レインボウ)を架け、希望(希望の“望”は望三郎の“望”)あふれる市政にしていきます。市議ブログもどうぞ <http://bouzaburo.blog.fc2.com>



●増田望三郎のプロフィール
大分県出身、酒の弱い九州男児。気さくな45歳。東京を経由し、安曇野に移住しこの4月で丸10年。三郷小倉の地に妻と2人の子ども、妻の両親の3世代で暮らす。米や野菜などの自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿(ちきゅうやど)』を経営。2013年10月より安曇野市議。好きな言葉『出会い、共感、展開』

●議会報告会が開催されました

去る5月に安曇野市議会として初めてとなる議会報告会を市内5地域で行いました。これは「安曇野市議会基本条例という私たち議会にとって憲法とも言える条例」(=法律)で規定されたもので、議会活動を市民のみなさんに報告・説明する機会でした。

市民に対して議会が初めてこのような場を設けた、ということに意義があったわけですが、市民に開かれた議会、また議会の信任を得るための報告会という点では中途半端なものになったと私は思っています。

それは、①時間がそもそも短く、市民の質問に十分に答えられない。②市民と自由に意見交換をするということが、議会側で認められておらず、市民にとって満足のいくものになったのか。(「議会だより34号」には、報告会は「自由に意見交換をする貴重な機会」と書かれており、そこと矛盾していた。)③市民の質問に対し、議会側がしっかりと受け止めて答えたとは言えない場面(右のマンガ参照)があった、などの理由からです。

特に掘金会場では市民から「一般質問の様子をテレビで見ると、議員の質問に対し行政側が答弁するが、それに対し議員はさらに突っ込んで掘り下げる質問をしない。もっと議論してほしい。議員としての信念を持ち、その信念からのやり取りをするのが議員の仕事。それを腹に据えて仕事してほしい。」といった内容を言われました。

それに対し、議長がなんと次のように応えたのです。「只今の議会の侮辱した発言について…」。「えっ、侮辱??？」私はこの市民の発言を議会や議員へのエールとして受け取ったのですが、議長は侮辱と受け取ったのです。これについては、会場の市民からも大ブーイング。発言の取り消しを求められ、議長は発言を取り消しました。

市民の方たちが、議会が初めて行う報告会に何らかの期待をし、また議会への要望を伝えに來られたのだと思います。そんな中で議長のこの発言は、議会の一員としてと

ても残念でした。今回の議長発言こそ市民への侮辱であると受け止めた議員、そしてそのことを議長や議会の中で言っている議員がどれだけいるのでしょうか。

議会報告会は市民のみなさんとのやりとりがライブ(生)だからこそ、このように私たち議員の質、議会の質が露呈してしまいます。私たち議員は謙虚にその質を振り返り、自らと議会を変えていくチャンスにしなければなりません。

●新たな安曇野市議候補、待ってます!



市議となり9か月。市政をより良いものにする議会の役割を果たすために、更なる議会改革を進める必要性を感じています。そのためには若く新しい人材が議会に参加し、風通しを良くしていくことが肝要です。

3年後の2017年秋には市議会改選が行われます。市政に積極的に参画できる市議という仕事を一緒にやりませんか?市民の気持ちに寄り添い、市民のための政治を行う議員をもっと増やしたいです。

先日7月12、13日には【未来を大切に
する市議&候補者合宿 in 安曇野】が開催され、福岡や群馬など全国から20名ほどの市民派市議と候補者が集まりました。私も市議になった原点を確認し、安曇野市議会を市民にとって身近で納得のいくものにする決意を新たにしました。安曇野を愛する若い世代のみなさん、市議に挑戦しませんか?一緒にやりましょう!連絡を待っています。



